

小山 農
日本民主青年同盟中央委員長

田原ちひろ
東京とニューヨークをつなぐ高校生折り鶴プロジェクト実行委員長

小山 農（こやま・みのる）

世界中の同世代と議論できることをうれしく思います。今日は、高校生の田原（たはら）ちひろさんとともに、核兵器の廃絶のために、どうやって青年の中に世論を広げるか、私たちの日本での努力について発言します。

まず、「核兵器をなくしたい」という思いは日本の青年に共通しています。同時に、「でも、なくせないのではないか」と考える青年も少なくありません。その背景には、日本政府の姿勢があります。日本政府は相変わらず「日本はアメリカの『核の傘』で守ってもらっている」と主張し、核兵器禁止条約にも背を向けています。

では、「核兵器をなくしたいけど、なくせないのではないか」と考える青年の中で、どうやって核兵器廃絶への世論と運動を広げるか。大切にしていることが3つあります。

1つは、被爆者の体験、決意、生き方に触れることです。被爆者の方々は、思い出すのさえつらい壮絶な体験を私たちに語ってくれます。なぜか。それは、「自らの体験を通して人類の危機を救おう」という決意があるからです。私自身、18歳の夏に広島を訪れ、涙ながらに訴える被爆者の方と出会い、その訴えをどう受け止めるか、自分たちに何ができるか、仲間たちと議論したことが原点です。被爆者の体験と核兵器をなくすために生きようという決意に触れ、「自分はどうするのか」を考えること、これが出発点です。

2つは、「私たちの声と行動で核兵器をなくせる」という展望を伝えることです。2017年の核兵器禁止条約の採択をもたらしたのは、被爆者を先頭にした市民社会の声と行動でした。私たちの声が動かしたのです。青年にとって、自分の行動に世の中を動かす力があると理解できたら、どんなに勇気づけられるでしょうか。いまや国際政治の主人公は一部の大国や政治指導者ではなく、一人ひとりの市民であるということをもみんなの自信にしたいと考えます。

3つに、以上の2点を伝えながら、一人ひとりの青年と草の根で学び、語り合っていくことです。私たち日本の青年は、毎年8月に広島と長崎で開かれる原水爆禁止世界大会を節目に、地域や学校で「被爆体験を聞く会」を開いたり、友達や同僚に「ヒバクシャ国際署名」への協力を呼びかけたりしています。民青同盟はこの春、「高校生の平和の願い届ける Action ～To NY 2020～」にとりくみました。高校生から核兵器廃絶を願うメッセージを集め、NPT再検討会議が開かれるニューヨークに届ける運動です。民青同盟のメンバーが全国各地の街頭や高校門前で対話したり、高校生のメンバーが学校の友達と語り合ったりして、メッセージを集めました。高校生はみんな真剣に考え、例えば「核兵器がなくなればみんな安心して暮らせる」「一秒でも早く核兵器をなくしたい」といったメッセージを書いてくれました。こうした行動の積み重ねが強固な世論をつくり、日本政府に核抑止論から抜け出し核兵器禁止条約へ批准するよう迫る力になります。

ではここで、実際に高校生のなかでこうした活動にとりくんでいる田原ちひろさんに、実際の様子を紹介してもらいます。

田原ちひろ

私は、去年、原水爆禁止世界大会に参加し、被爆者の方から話を聞きました。そして、日本は唯一の戦争被爆国なのに核兵器禁止条約に署名・批准をしていない事実を知りました。これらがきっかけとなり運動を始めました。東京の高校生で「ヒバクシャ国際署名」も5000筆集めてきました。

そして、去年の9月に、原水爆禁止世界大会ニューヨークに向けて「東京とニューヨークをつなぐ高校生折り鶴プロジェクト」(※)を始めました。これは、日本の文化であり平和のシンボルでもある折り鶴を高校生の平和の思いとしてニューヨークに届けようというものです。目標数は、世界に存在するといわれている核兵器の数の14525羽です。

毎月集まり「折り鶴を折る会」をしました。集めた鶴を持ち寄り、核兵器禁止条約やNPT再検討会議、日本政府の姿勢について学んだり、被爆証言を聞いたりしました。たこ焼きパーティーや鉄板焼きをしながら平和の想いを交流しています。

私たちは、友達や先輩にプロジェクトを広めることを第一に考え、活動してきました。それは、少しでも多くの人に原水爆禁止世界大会が初めてニューヨーク

でおこなわれることや核兵器禁止条約の存在について知ってもらいたいと思ったからです。私も、友達に呼びかけると好意的に協力してくれたので、気軽に呼びかけることも大切だと学びました。また、朝登校すると私の机に折り鶴がきれいに並べられていたり、わざわざ届けに来てくれる先輩もいました。約半年間で目標の14525羽を集めることができました。

目標達成を支えたのはメンバーの思いと行動でした。それは、「若者が動くと言語が大きい。高校生が行動していることを伝えたい」と学校の休み時間に折っていたメンバーや、「核兵器を持つこと自体が人類にとっての凶器である」と友人と折ってくれたメンバー、「平和への意志を示し、被爆者の方の思いを私たちが継承していかなければいけない」と中学時代の友人にも連絡を取ったメンバーなど、一人ひとりの思いによって成し遂げられたものです。私たちの活動を見て「このとりくみは、大事だと思ったからクラスメイトで折りました」と届けてくれた高校生もいました。活動が思いとともに広がって嬉しかったです。

世界中で環境問題や核問題など、あらゆる問題にとりくんでいる若い人たちを見ると、とても勇気づけられます。その中の一員であると思うと、とても誇らしい気持ちになります。私たちは、自分の問題として考え、世論をつくっていくために行動することが大切だと思います。核兵器禁止条約に署名・批准する日本政府をつくるために私たちにできることは、同じ思いを持ち、ともに声を上げる仲間を増やすことだと考えます。それは、小さな勇気の積み重ねであり、その積み重ねによってさらに大きな声を政府に届けていきたいと思います。そして、私たち高校生の平和への強い思いで政府を動かす、被爆者とともに、1日でも早く核兵器禁止条約に署名・批准させたいと思います。

小山 農

いま世界は、新型コロナウイルス(COVID-19)の克服へ力を合わせています。この経験の中で、世界中の人々がもはや現在の「もうけ最優先」の経済・政治システムと人類の生存は両立しないのではないかと考えるようになっていきます。国連のグテーレス事務総長は、コロナ後の世界について、現状復帰ではなく「かつてより良い世界への復興」を、と訴えています。

今日のこの青年集会が、「かつてより良い世界」、すなわち、核兵器を廃絶し、気候変動を阻止し、格差・貧困のない世界をつくるために、世界の青年の連帯を広げる契機となることを願います。ともに頑張りましょう。